

研究・調査報告書

報告書番号	担当
77	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
<p>Moderate alcohol consumption is more cardioprotective in men with the metabolic syndrome. 中等度の飲酒の虚血性心疾患予防効果はメタボリックシンドロームを有する男性でより顕著に見られる</p>	
執筆者	
Gigleux I, Gagnon J, St-Pierre A, Cantin B, Dagenais GR, Meyer F, Despres JP, Lamarche B.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Nutr. 2006 Dec;136(12):3027-32.	
キーワード	
中等度アルコール摂取、メタボリックシンドローム、虚血性心疾患	
要旨	
<p>目的: アルコール摂取・メタボリックシンドローム・虚血性心疾患の関連を明らかにすること。</p> <p>方法: ケベック循環器研究のコホートにおいて、1966名の男性を対象に行った。調査開始時には虚血性心疾患の既往がなく、13年間の追跡期間中に219例の初発の虚血性心疾患が診断された。アルコール摂取量については、標準的なビール・ワイン・醸造酒のアルコール濃度を基に、1日あたりの純アルコール摂取量 (g/日) を計算した。メタボリックシンドロームは米国成人治療委員会コレステロール教育プログラム第3版 (NCEP-ATPIII) の定義によった。</p> <p>結果: 1日 15.2g 以上の純アルコール (アルコール摂取量 4等分割の最大グループ) を摂取する男性は 1日 1.3g 未満摂取の群 (4等分割の最小グループ) と比較して、有意に年齢が若く、HDLコレステロールが増加しており、インスリン・CRP・フィブリノーゲンが低下していた。虚血性心疾患危険因子を調整したところ、1日 15.2g 以上の純アルコールを摂取する群では 13年間の虚血性心疾患罹患率が 39%低下していた (相対危険度=0.61、P 値=0.02)。また、メタボリックシンドロームを有する群において、一日摂取量が 15.2g 未満であると虚血性心疾患罹患の危険度が増加したが (相対危険度=2.24、P 値<0.001)、メタボリックシンドロームを有さない群ではそのような危険度の増加はみられなかった (相対危険度=1.31、P 値=0.22)。</p> <p>結論: 中等度のアルコール摂取は虚血性心疾患を予防する効果があり、その効果はメタボリックシンドロームのように危険因子を抱える状況でより重要であることが示唆された。</p>	